

**血尿**を繰り返し指摘される方に知って欲しい**腎臓病**があります

# IgA腎症

血尿についてももう少し深く調べておきませんか？

## IgA腎症はこんな病気

IgA腎症は免疫異常による腎臓病です。本来感染症から身を守る免疫物質である免疫グロブリンA(IgA)が腎臓に沈着し、免疫反応による炎症を引き起こして腎臓を傷つけます。IgA腎症の原因となる異常なIgAは、個々の体質を背景として悪い粘膜免疫により作られます。つまり、のど粘膜の感染症(扁桃腺炎・咽頭炎)や、腸管粘膜の感染症(腸炎)が発症や悪化の起点になります。一度獲得した

免疫を排除することは難しいため治療に難渋することがありますが、新しい治療法の開発により治療成績が向上してきています。一方で、自覚症状はほとんどないにも関わらず、診断には腎生検という侵襲性のある検査が必要であり、早期診断が進まない原因の一つとなっています。**発症すると20年以上の長期経過を辿り、全体の30~40%が透析を要する末期腎不全に至る重要な疾患です。**



### IgA腎症のデータは？

- 国が定める**指定難病**で、国内患者数は**約33,000人**
- 世界で最も多い腎炎で、**日本を含むアジア人に多い**
- 人口10万人あたり年間4~5人が新規発症(**毎年約5,000人**)
- 好発年齢は**20~30歳代**
- 透析が必要な末期腎不全に陥るのは**10年で10~15%、20~30年で30~40%**
- 透析患者数約35万人のうち、**約20%がIgA腎症**



### IgA腎症の症状は？

- **ほとんどの症例で自覚症状はありません。**
- 一部の症例で、かぜを引いたり、ある種のワクチン接種をきっかけに褐色調の尿を自覚することがあります。
- 肉眼ではわからない、ごくわずかの血尿が持続します。
- 発症からしばらく経つと尿蛋白が陽性となり、腎機能が低下することがありますが、この段階でも自覚症状はほぼありません。



### IgA腎症の診断は？

- 尿検査異常をきっかけとして疑われますが、その原因精査のために通常行われる**検体検査(血液・尿)や画像検査(超音波検査・CT・MRI等)ではIgA腎症を診断できません。**
- 血液検査でIgAなどが測定されることがありますが、診断にはあまり役立ちません。
- **腎生検\*でのみ診断されます。**

\*腎臓に直接針を刺して腎組織を採取する検査で、約1週間の入院が必要です。



### IgA腎症の問題点は？

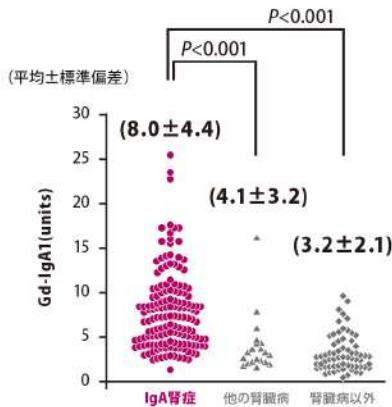
- IgA腎症は腎臓医だけが診断できる腎臓病であるため、必要に応じて腎臓専門外来へ紹介受診する必要があります。しかし、紹介の判断は担当医師の経験等に依存します。
- 腎生検を行うこと自体のハードルが比較的高く(侵襲性がある、必ずしも安全ではない、1週間の入院が必要、検査自己負担額7~8万円など)、入院のスケジュール調整に時間がかかったり、検査を躊躇している間に病気が進行してしまうことがあります。

## 研究検査

**血尿**を繰り返し指摘される方に知って欲しい**検査**があります

# Gd-IgA1

IgA腎症の研究で  
注目されています



1 unit = 1 µg/mL enzymatically generated Gd-IgA1  
Nephrol Dial Transplant. 2015;30:1315-21.より改変

IgA腎症の原因は、ガラクトース欠損型異常糖鎖IgA1 (Gd-IgA1)と、これに対する自己抗体が病気の発症と病態進展に関与していると考えられています。腎臓病がない人や、IgA腎症以外の腎臓病患者と比べて、**IgA腎症患者では血中Gd-IgA1濃度が高いことが報告されています(左図参照)。**

血尿は健康診断受診者の5~10%で認められます。精密検査でその原因が判明するのは10%未満であり、多くは原因不明で、その中にIgA腎症が隠れています。IgA腎症は決して多い疾患ではありませんが、より安心な未来のために、Gd-IgA1をチェックしておきませんか？

## 検査結果の利用方法について

### 担当医師が陽性と判定した場合

- 血尿の原因を調べるきっかけが得られる(患者視点)。
- IgA腎症につき情報収集するきっかけが得られる(患者視点)。
- すぐに腎臓専門外来へ受診しない場合でも、定期検査の必要性を認識できる(患者視点)。
- 血尿が軽度であっても、臨床的にIgA腎症が疑える場合や否定できない場合には専門医への紹介をより検討できる(医師視点)。

### 担当医師が陰性と判定した場合

- 陰性判定でも、IgA腎症を否定することはできません。
- 血尿は原因がはっきりしない場合でも異常ですから、引き続き定期検査を受けてください。

#### (注意事項)

- \*本検査は研究検査です。臨床診断に利用することはできません。
- \*学術機関が定めた正常及び異常の基準値はありません。臨床的な病状を加味して結果判定します。
- \*IgA腎症は腎生検で診断が確定する腎臓病です。Gd-IgA1で診断をすることはできません。
- \*腎生検は、腎臓医が必要を判断し、十分な説明を受けた患者が同意の上で実施されるものであり、Gd-IgA1の陽性判定は腎生検を推奨するものではありません。

当院でGd-IgA1検査が受けられます

検査費用は、受付窓口でお聞きください

\*保険証が使えない自由診療検査です。



Gd-IgA1測定試薬製造：  
株式会社免疫生物研究所  
群馬県藤岡市中字東田1091-1  
TEL：0274-50-8666



Gd-IgA1検査受託：  
株式会社レノプロテクト  
東京都中央区日本橋2-16-6-6F  
TEL：03-6262-3100



株式会社レノプロテクト RenoProtect は、  
腎臓Renoを守るProtectための事業を進めています。